は　じ　め　に

令和５年度がスタートしました。ほぼ３年にわたって社会全体が翻弄され続けてきた新型コロナウイルスの感染症拡大は、一定の落ち着きを取り戻し、日常生活や各種のイベント等でも、当たり前の日常が戻ってきています。

ただ、感染状況については、以前のような公表形式ではないことから、見えにくい実態がありますが、感染者がゼロになっているわけではありません。

各学校におかれましては、感染防止対策に注意を怠ることなく、希望に胸を膨らませて入学してきた入学生や進級を機会に新たな目標を設定し、意欲にあふれた子ども達を、全教職員で見守り支え、安心・安全な学校経営に努めていきましょう。

さて、四万十市教育研究会の活動内容は、これまでの３年間は従来のサークルⅠ（教科研修）の活動の代替（試行期間）として、「授業づくり講座」への計画的且つ積極的参加によるさらなる授業改善に取り組んできました。

この３年間の実践の中で、一定の定着が図られたことや今後も中学校の再編が進むこと、さらに、児童生徒数の減少により学級数の減少に伴う教職員数の定数も配置減になることが想定されます。会員数が減少していく中で、従来のサークルⅠ（教科研修）の形に戻すことは難しい状況にあります。

従って、従来のサークルⅠ（教科研修）の試行期間としての活動は終え、正式に「授業づくり講座」を中心に据えると共に、指定研究を受けている市内の小中学校の研究発表会、また、各研究団体が開催する研修会が、市内の小中学校を会場として開催される場合や各校の「授業研修会の公開」等々も「授業づくり講座」と同等の位置づけとして取り組んでいくこととしました。

さらに、従来のサークルⅡについても、「教科外・領域」という呼称とし、昨年度に新設された中学校の実技教科（音楽、美術、保健・体育、技術・家庭）に関しては、学校再編により難しい面が出てくることも想定されますが、【部会】としての位置づけを継続し、昨年度と同様に研修日を設定して教科ごとに主体的に取り組むこととしました。

さて、四万十市教育研究所（含ふれあい学級）は、所長以下、研究員２名、不登校指導員４名、事務職員１名、ＳＣ（スクールカウンセラー）１名、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）２名、学校配置のＳＳＷ３名を加えて、総勢１４名の職員体制でスタートしています。本年度もオール四万十の一員としてお役に立てるよう力を合わせて取り組んで参りたいと思います。どうぞご理解ご協力をよろしくお願い申しあげます。

四万十市教育研究所